

(北淡震災記念公園)

1 班 班長 川田紬 班員 細谷穂乃香、前田鈴音、アンディ

私たちが見学した北淡震災記念公園では、兵庫県南部地震について語りべさんがくわしくお話してくださいました。初めに、震災直後の映像を見て被害の大きさに驚きました。とても大きな地震だったにもかかわらず、北淡町では震災による死者は一人もいなかったそうです。なぜなら、町民の二分の一が消防団に所属していて、地域コミュニティが確立されていたからです。この話を聞いて、地域コミュニティの大切さを学びました。次に、野島断層保存館を見学しました。国指定天然記念物野島断層を見ました。予想以上の大きかったです。そして、震度7の地震を体験してきました。私たちが今までに体験したことないような揺れでした。第二次世界大戦の神戸空襲に耐え、阪神・淡路大震災の地震と火事に耐えた神戸の壁は、とても頑丈でした。この北淡震災記念公園で聞いたり、体験したりしたことを後世に語り継いでいくべきだと感じ、震災の恐ろしさを絶対に忘れてはいけなと思いました。



2 班 班長 阿部稚宥 班員 對馬彩乃、伊部みつき、名取涼子、浅沼百花

1995年1月17日午前5時46分震度7の大地震が阪神・淡路を襲いました。今回訪れた北淡震災記念公園では、実際に経験した方のお話を聞きました。阪神・淡路大震災は震源が浅かったため被害が大きく、内陸直下型の横揺れ地震でした、しかし、日本全国からの支援・支給物資により、迅速に復旧することができたそう

です。その要因の1つにボランティアの活動が挙げられていました。ですが、そのボランティアの方々が被災者の代わりにしてしまったことで、被災者が自分でもできることをしなくなってしまったそうです。その反省から、「ボランティアで大切なのは代わりにするのではなく、自立を助けること」と語りべさんはしていました。そのほかには、震度7の体験館にもいきました。体験館の椅子は固定されていたのですが、椅子が固定されていなかったら、と考えるととても怖かったです。地震のことを学ぶ機会の少ないわたしたちにとって、この経験はとても貴重なものになりました。



3班 班長 小足結実 班員 朝日美帆、上村綾美、遠藤舞、及川秋穂、小林ひなた、塩月悠愛

1日目、北淡震災記念公園へ行きました。その場所では、震災の被害にあった民家そのまま保存されたものがあったり、地震を体験できる場所があったりし、語りべさん自らの体験談をもとに北淡町の様子、地域のコミュニケーションの大切さ、地震に対する備え、命の大切さなどについてお話を聞くことができました。

西暦1995年(平成7年)1月17日午前5時46分に兵庫県南部において、震度7が発生しました。それを阪神・淡路大震災といいます。6434人の死者のうち、約500人が焼死というものでした。しかし、消防団や地域のみなさんは誰がどこで寝ているかを知っていたので、生き埋めになった人を全員助けることができ、行方不明者0人となりました。また、お話を聞いて、「ボランティアは自立を助けること。」、防災の基本は「自分の命は自分で守る!」ということを学びました。今日・明日は何が起こるかわからないので、1日1日を大切に過ごしていきたいと思いました。

(奈良公園・大仏)

4班 班長 木村優花 班員 朝日美鈴、尾崎萌絵、山本歩美

～奈良公園について～

奈良公園では鹿の生態について、実際にふれあうことで学ぶことができた。また、東大寺大仏殿付近には様々な小店があり、日本のおみやげなど、多種多様な文化が感じられるお店が多かった。入口には阿形・吽形など、歴史的な建造物を間近に見ることができた。東大寺盧舎那仏像がある東大寺大仏殿は、世界遺産に登録されているだけあり、建設当時の精密な構造を遠くからでも感じることができた。また、外国人の多さから、日本の文化・歴史を体感する代表的な聖地だったということが分かった。

大きな大仏を見て、予想以上の大きさにびっくりした。見る前は、教科書にのっているから、行かなくてもいいかなと思っていましたが、門から見えるほど大きな大仏で、感動してしまい、行く前の自分の気持ちが申し訳なくなった。

5班 班長 栗原 葵 班員 小林乃女、岩本佑歩

私たちが奈良公園に行ってみて思ったことが2つあります。

まず最初に、公園の広さです。502ヘクタールもあり、東京ドームの敷地面積の100倍以上もあり、歩いて周るには大変な広さだと思いました。一度はぐれると見つけられない程広いので、みんなについていくことが集団行動において大切だと思いました。奈良公園の鹿は、約1200頭もいてどこを見ても鹿ばかりで少し怖かったのを覚えています。鹿はたくさんいてふんなどがそこらじゅうにおちているのかと思っていたらすごきれいでびっくりしました。次に、大仏殿に行きました。門の所に金剛力士像があり、その大きさにびっくりしました。でも、大仏はそれ以上に大きく、私たちを見守っているようでした。ほかにも、あちらこちらに色々な像がおいてありました。この2つを見て、私達は歴史的建造物に触れることができ良い勉強になったと思います。

6班 班長 小須田 美裕 班員 高橋かりん、瀧山由衣、土山美緒、平井都久美、鈴木杏奈

北海道にはない、歴史や文化を学べて良かったです。シカがいっぱいいて驚きました。奈良の大仏は、思っていたよりも大きく、迫力がありません。門のところには、阿形と吽形は修学旅行にいく前に授業でもふれていたもので少しは知っていたけれど、本物を見ながら案内してくれた人の話を聞いたほうが歴史を感じる事が出来ました。奈良公園は広く、シカの数約1200頭でシカと友達になることが出来ました。シカは人間のあつかいを知っていたので怖かったです。えさを持っている人には近づき、持っていない人には興味がなさそうにしました。カメラを向けると、カメラ目線で撮らせてくれました。2日目はたくさん寺巡りをしたけれど、1番とっていいほど東大寺が印象に残りました。今度行くときには、もっとゆっくり観光したいと思います。

(天龍寺・嵐山)

7班 班長 斉藤美月 班員 本田美沙希、小川千尋

私たちは、天龍寺と嵐山を訪れて、きれいな庭を歩きながら、ゆっくり見学しました。心地良い空間でとてもんびりしました。びっくりしたのがトイレに行ったときに、トイレットペーパーがなくて外に出ると有料だということ

を知り、びっくりしました(^O^)嵐山では、京都の八つ橋をみんなで大買いました。たくさん味があって迷いました。他にも、たくさんお土産があって時間が短かったけれど、いろいろ買えました。京都の人たちは、みんな気さくで話しかけてくれて歩いていても楽しかったです。おばさんにお茶をすすめられてみんなで大買ってしまったのが今となっては、いい思い出だと思います。ちなみに、家にまだお茶が残っています。まあ、全体的に京都は、やたらいい所！！！！また、行きたいな(^O^)♡♡♡

写真は奈良公園



9班 班長 千葉 博貴 班員 平川、弘田、須藤、榊原、伊林、阿部

天龍寺は京都府京都市右京区嵯峨天龍寺芒ノ馬場町にある、臨済宗天龍寺派大本山の本院です。創立者は足利尊氏で、初代住職は夢窓疎という人だそうです。足利将軍家と桓武天皇ゆかりの寺として壮大な規模と高い格式を誇り、京都五山の第1位とされてきました。「古都京都の文化財」として世界遺産に登録されています。

嵐山は京都府京都市の観光地で、国の史跡および名勝に指定されています。観光案内等では、嵯峨地区を含めた渡月橋周辺全域をひとまとめに嵐山ということが多そうです。メインストリートでは、お土産店や飲食店がたくさん並んでいて、人通りがとても多くて1、2時間では全部回りきることは、難しいと思いました。もちろん僕たちの班も全部回りきることはできませんでした。でも、嵐山のメインストリートの雰囲気や建物の作りなどをしっかり見学することができました。

(鹿苑寺金閣)

10班 班長 福井 基樹 班員 本間拓弥、本間亮、橋本亮、吉田晶紀、曾根田蓮

金閣は、1398年、室町幕府3代将軍足利義満が北山に建てました。義満の死去後、義満の遺言により夢窓国師を開山し(初代の死後)とし義満の法号鹿苑院殿から文字をとり、鹿苑寺と名付けられ、1994年、世界文化遺産に登録されました。

金閣の二層と三層は、漆の上から純金の箔が貼ってあり、屋根は樅の薄い板を何枚も重ねたこけら葺で、

上には鳳凰が輝いています。

一層は寝殿造で法水院、二層は武家造で潮音洞と呼ばれています。三層は、中国風の禅宗仏殿造で究竟頂と呼ばれ、三つの様式を見事調和された室町時代の代表的な建物です。

金閣にある庭は、金閣のある鏡湖地を中心とし、葦原島など大小の島々や、当時の諸大名が競って石献納してその名がつけられた畑山石や赤松石・細川石などの名石が配置されています。西の衣笠山を借景とした庭園は室町時代の代表的な池泉回遊式庭園で、国の特別史跡及び特別名勝に指定されています。



11班 班長 天野小春 班員 後藤、水口、小椋

私たちは、2日目に京都にある金閣に行きました。

金閣は正式名称を鹿苑寺といいます。相国寺塔頭寺院の1つで舍利殿金閣が有名なため、金閣寺と一般的に呼ばれています。元は鎌倉時代の公卿、西園寺公経の別荘を3代将軍足利義満が譲り受け山荘北山殿を作ったのが始まりとされています。遺言によりお寺になり、義満の法号鹿院殿から2文字取り鹿苑寺とされました。2階、3階には金箔が張られています。つくりは、1階が寝殿造、2階は、和様仏殿風。3階は禅宗様となっています。

金閣を訪れる前は、金箔とはいえそんな美しく見えるだろうかと半信半疑でしたが、実際金閣を見に行くと、写真で見ると、とても美しくここに金閣が存在してその目の前で見ているのが不思議な気持ちになりました。

歴史を学び、実際の場所に行くととても楽しく見ることができると思います。皆さんも金閣寺に行く機会があれば行ってみてください。

12班 班長川淵晃平 班員今村祐太郎、今村勇斗、伊藤裕家賀、川崎隼人、中山準志、長谷川大也

京都府京都市北区の左大文字山南麓にある鹿苑寺の舍利殿の金閣は、室町時代、征夷大將軍である足利義満が建てたものである。三層建てで、初層は寝殿造り、二階は武家造り、そして三階は唐様(禪宗様)となっており、三つの建築様式を調和させた珍しい造りをしている。二階、三階が金箔を押しつけてあり、一人の職人さんが張っているとのこと。そしてその金閣は、鏡湖地のほとりに立っている。1994年にユネスコ世界遺産に登録されている。屋上にある鳳凰は、平和の象徴であり平和をもたらすとされている。

感想

金閣寺は教科書で見たことがあったが、やっぱり実物を見たら全てが金でできていてとてもきれいでした。そして、その金箔を一人の職人さんが張っているなんてとても苦労して時間をかけて作ったんだなと思いました。



(銀閣寺)

13班 班長 松尾奈南子 班員 富樫聖花 長尾瀬里香 中丸有希奈

修学旅行の2日目、寺巡りをしました。その中で行った銀閣寺を紹介します。銀閣寺は、銀色かと思ったけど、銀色ではなく木でできていて、びっくりしました。銀閣寺は金閣寺と違って、造られてから一回も壊してなくて、

そこがすごいと思いました。

銀閣寺の正式名称を東山慈照寺といい、相国寺の塔頭寺院の一つです。銀閣寺の名の由来は、江戸時代、金閣寺に対し、銀閣寺と称せられることとなったといわれています。室町幕府八代将軍の足利義政によって造営された、山荘東山殿を起源とし、義政の没後、臨済宗の寺院となり、義政の法号慈照寺にちなんで慈照寺と名付けられました。

銀閣寺には、たくさんの深い歴史がありました。



14班 班長 岩戸恵理菜 班員 井谷遥、押切朝己、古川瑞樹、滝口知亜紀、熊谷梨奈

銀閣寺に行って、感じたことは、まず色です。金閣寺を見てからの銀閣寺だったので、きれいな銀かなって思っていたけれど、木でちょっとショックでした。銀閣だけじゃなくて、銀閣を見る前の道と見終わった後の道で見た風景が銀閣に負けなくらいきれいでした。あと、お土産屋さんが金閣より少なかったです。

銀閣寺は、足利義政の時代のもので、それが今でもまだ残っているということが、とてもすごいと思いました。何で、500年前のものなのにもかかわらず、キレイに残っているかが不思議です。500年前のものなのに、昔にタイムスリップした気持ちになりました。

銀閣のまわりの自然が美しく、京都らしい良い景色でした。秋になれば紅葉がすごいキレイになるから見てみたいのと、冬になると少し雪が降っていてキレイだと思うから、ぜひ見に行きたいなと思います。銀閣を含め京都には何年も前の歴史ある建物がたくさんあってとても感動しました。これからも歴史ある建物を壊すことなく守っていかたいなと思いました。

15班 班長 斉藤紫龍 班員 後藤正人 関谷風哉 山下翔大

銀閣寺は金閣寺の後にいったから金閣寺の色のすごさとかがまだ頭に残っていたのでそんなに心に残らなかったし、色をすごいと思うことはありませんでした。銀閣寺を見たとき、金閣寺は金だけど銀閣寺は銀じゃないと聞いていたけれど、やはりとてもがっかりしました。銀閣寺の配置を見て思ったけれど、入り口の所にすぐ

銀閣寺があったのに、出口までの道が結構長かったのでなんでこんなに長くするのかと疑問に思いました。がっかりはしたけれど、銀閣寺は昔に作られたんだなあと思えるくらい今の造りとは違っていたし、建物の古さが目立っていた所を見たときにはこういう感じの造りもいいなあと思いました。銀閣寺に行く前の道の所にいっぱい京都の食べ物を売っている所があってお祭りみたいで感動しました。なので修学旅行で銀閣寺に行くことができてよかったと思いました。



(清水寺)

16班 班長 今野 皓 班員 安田 悠斗 矢吹 翼 秋葉 翔 蜂谷 佳史 瀬戸 雄哉

清水寺は、京都の東山の音羽山にある、平安京遷都以前からある、世界遺産です。先祖は行叡居士、開祖は延鎮、本尊は千手観音です。本堂を最初に建てたのは坂上田村麻呂です。本堂は、9回焼失していて、現在のものは、徳川家光が再建したものです。歴史を感じますね！実際に行ってみて学んだことは、建築技術の高さです、江戸時代以前に作られた建築物であるのに、大きく、舞台に柱がないですし、とても素晴らしく、昔の人が築いた文化などに触れられてよかったです。

清水寺について松尾芭蕉がこのような短歌を詠んでいます。

松風や 音羽の滝の 清水を むすぶ心は 涼しかるらん

意味は、「菩薩の説法に接すると、心が慈悲に満ちて清められますよ。」という意味です。

人生に悩んでいる人や 清水寺に興味がある人は ぜひ訪れて清水寺に触れてみてください。

17班 班長 石崎 駿 班員 江上 聖実 長瀬 維吹 矢野琢哉 紙谷 峻平

清水寺は京都の東山区の音羽山にあります。清水寺の成り立ちは諸説ありますが、賢心という僧が夢のお告げで今の清水寺の地である音羽山に向かい、そこで行叡居士という白衣の修行者と出会います。賢心は「あなたが来るのを待っていた。東国へ旅立つので、後を頼む」と言い残し、去っていった行叡を観音の化身と悟り、千手観音像を刻んで行叡の旧庵に安置したというのが清水寺の始まりといわれています。ガイドさんの説明では平安京の遷都以前からの歴史をもつ京都の数少ない寺院の1つだそうです。実際に見ると写真等のものより風格のあるお寺でした。さらに世界遺産に登録されていて、京都市内でも有数の観光地なので参詣者や観光客の方がたくさん訪れていました。境内が広く人も多かったです。毎年恒例の今年の漢字が発表される場所や「清水の舞台から飛び降りる」という言葉で使われるぐらい日本の代表的な建造物なので、修学旅行で見学できてよかったと思います。

(東京ディズニーランド)

19班 班長 岸山 班員 大堀 甲斐

東京ディズニーランドに行ってきた！修学旅行で一番楽しみにしていたから、楽しくて死んじゃいそうだった。

半日しかいられなかったけど、ミッキーもミニーマウジーもグーフィーもフォークシーもドナルドもいた！

三人でおそろいのミニーマウジーのパーカーもミニーマウジーのカチューシャも付けて、仲よく楽しく行ってこられた！

だから、卒業旅行も行きたい！

自主研修で、ディズニーシーに行ってきた。

シーについてからタワーオブテラーに乗りました！

後ろに乗っていた外国人がすごく大きな声で英語をしゃべっていて面白かった。

あとは、センターオブジアースやインディジョーンズに乗った。

食べたいものも食べたし、乗りたいものにも乗れて、写真もいっぱいにとってすごい満足できました。

ファストパスをとる技もちゃんと身に付けて時間を有効に使えて、「うちらすごいなー」ってめっちゃ思ったー！！

笑笑

20班 班長 佐藤有紗 班員 床波里奈、福地若菜、蔵谷公美

私たち20班は東京ディズニーランドについて報告します。

今年は30周年記念というハピネスあふれる特別な1年なので、ザ・ハピネス・イヤーと題しています。

今回私たちは4つのアトラクションに行ってきましたが、その中で印象に残ったアトラクションを紹介します。

1つめはディズニーフィルハーモニックです。

ディズニーの音楽と魔法が織りなす壮大な3Dアトラクションが迫力満点で手をのばせばディズニーの人気キャラクターたちに触れられそうなマジカルな体験の連続ができます。

2つめはビックサンダー・マウンテンです。

猛スピードで走る鉱山列車が目前に迫る赤茶色の岩肌を、傾斜しながら一気にくだるスリルがあり、普通のジェットコースターよりもリアルで迫力があっておもしろい乗り物です。

ディズニーは園内のすべてが普段とは違う体感を得ることができて楽しかったです。

(浅草寺)

21班 班長 高柳葉里 班員 加藤いづみ 唐太夢乃 畑内里穂 佐々木里奈

修学旅行最終日浅草寺に行きました。天候には恵まれず、雨で残念でした。創建は今から1400年もの昔の飛鳥時代の創建と伝わる東京最古のお寺です。観音堂の手前には、焚かれた線香の煙を自分の身体の悪いところにかけてと良くなるといわれる常香炉があります。長い歴史を持つ浅草寺は、日本全国はもちろんのこと世界各地から年間3000万人もの人が訪れるほどの世界中で人気のお寺です。そして、浅草寺は、権現造りを今に伝える貴重な建築物として重要文化財に指定されています。

浅草寺はとても立派で素敵なお寺でした。そこにはいろいろなお店があり、人の多さに驚きました。せんべいがとてもおいしかったです。とてもいい経験になりました。

22班 班長 松木瑠那 班員 木村百合香、渡邊真唯佳

浅草寺見学について、ここに報告発表させていただきます。

見学当日、天候に恵まれず、あいにく雨の中での浅草寺見学となってしまいました。浅草寺は、今から1400年前、飛鳥時代に創建された東京都内最古のお寺です。雨にも関わらず、観光客で賑わっていました。通り行く人の傘が危なく、仲見世通りでの買い物は諦めたのは、疲れがたまっていたからでしょう。有名な雷門については、工事で見ることはできませんでした。

どのお寺の見学よりもゆっくりすることができた浅草寺だったので、天候はとても残念でした。もし、機会があれば、晴れた日にじっくりと見学して周りしたいと思います。

(東京スカイツリー)

23班 西館 弘斗 班員 坂藤 岡本 小池 小山

スカイツリーは地上から634mも離れています。展望台の高さは320mもありそこからの景色は残念ながらくもりでした。いつもは、東京の風景が素晴らしいぐらいキレイに見えるそうです。高速エレベーターはどんどん上がっていき気圧によって耳が痛くなり階が上がっていくところがわかりました。スカイツリーは、いろんな業者のひとがたずさわり大変長い時間がかけられた日本の象徴なので忘れないようにしていきたいです。スカイツリーに上った感想は、思ったよりも高く曇っていたにもかかわらず意外と人がいました。一番良かったのは、写真を撮るとき634mにちなんでムサシの掛け声で写真を撮ったことが印象深かったです。

24班 班長 棟方 来夢 班員 若狭 凌 石川 優太郎 川本 剛寛 品川 員輝

東京スカイツリーの一番下は正三角形でできており、地上から離れるほど正三角形からまろくなっていき、地上320mになると真円となっている。東京スカイツリーの高速エレベーターの壁には季節ごとに変わるらしく、私たちが来たときは桜の花びらが壁に飾られていた。

高さ350mのところに展望回廊があったがあれはチケットが必要らしく並ぶのも時間がかかるほど人気らしい。東京スカイツリーは高さ634mの世界一高い電波塔として有名で、夜になるとスカイツリー全体がライトアップされる。いろいろな人たちの協力があってこそこの東京スカイツリーだと思った。

実際に東京スカイツリーに行った感想は、外は曇っていて、スカイツリーの景色を見ることはできなかったけれど、やっぱりテレビで見るより迫力があり、いい経験になったと思う。